

(1) 新 DCTP 会議活動報告

座長 水野 裕 央
幹事長 繁尾 明彦

◇活動の概要

当会議（DCTPとは、「Dreams Come True Project」の略です）は、昨年度に引続き、人口減少問題等を踏まえた「20年後の山梨のあるべき姿」の新たな提言に向け、検討・作業を進めて参りました。

具体的には、これまで、山梨県の人口減少対策として、「山梨県を女性が活躍できる地域としてPRし、就職や起業、子育ての場として移り住んでいただく環境整備の推進」を提言してきましたが、その具体的実践を未来山梨創生委員会・未来の山梨を考える部会に委ねるとともに、引続き、「高齢化・人口減少社会に備えた街づくりに向けた提言」について甲府市と意見交換を実施して参りました。

もっとも、2020年3月以降は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、一定期間活動を見合わせておりました。その後、様子を見つつ活動を再開後は、座長の人事異動もあり、幹部会合を開催し、改めてこれまでの取組みの情報共有を行うとともに、今後の進め方について意見交換を実施してきたところで

◇活動実績報告

■ やまなし女性にプラス！プロジェクト関係

(1) 第1回やまなし女性にプラス！会合（2019.11.25 日銀甲府支店会議室）

- ・「高齢化・人口減少社会に備えた街づくり」について甲府市との意見交換（上村副市長ほか）

(2) 第2回やまなし女性にプラス！会合（2020.2.17 日銀甲府支店会議室）

- ・「高齢化・人口減少社会に備えた街づくり」に関する甲府市との意見交換（上村副市長ほか）



(第1回会合の様子)



(第2回会合の様子)

■ 幹部会

- ##### (1) 「高齢化・人口減少社会に備えた街づくりに向けた提言」の今後の進め方に関する意見交換（2020.8.6 日銀甲府支店会議室）

◇これまでの意見交換における主な意見

- ・今後 A I の進展により余剰となった都会の大企業の優秀な人材を山梨県へ移住させるための態勢整備が必要ではないか。
- ・移住の決め手はそこで稼げるかどうかではないか。
- ・甲府には足りないものはなく、全部揃っているが、いざ、「甲府の特徴は何だろうか」と問いかけると意見がでてこないのが実態。
- ・どういう街に自分が住みたいかといった場合、災害に強く、何かあっても、エネルギーを含め自己完結できるエリアに住みたい。
- ・甲府市の空き店舗が密集するエリアに、県内の大学生がお店を運営するスペースを設ければ、地域の活性化に繋がる。
- ・地域活性化のネックは県民のメンタリティ。第三者の立場では立派なことを言うが、当事者になると急にトーンダウンしてしまう。そういうメンタリティを前提として、世の中に地域活性化のムーブメントを起こせるような具体的な取り組みを考える必要。
- ・時間消費型のお店がない。
- ・県外からの移住者にとって、繋がりの方が欲しい。
- ・甲府市は学校が多いのが強み。学校を活かして街の賑わいを取り戻せないか。
- ・某県内の大学では3分の2が県外出身者であり、こうした県外出身者の学生に地域活性化のために動いてもらう環境が必要。
- ・甲府はコンパクトで何でも揃っており、住みやすい。自信をもって情報発信していくべきではないか。
- ・女性と若者は、地域活性化の取り組みにおける重要なターゲット。
- ・甲府市では自治会が機能しており、自治会の力を活用してはどうか。
- ・地元への愛着度が高い県ほど人口流出が低いのではないか。

◇今後の活動方針

今後は、「高齢化・人口減少に備えた街づくりに向けた提言」について、まずは、甲府市との意見交換を引き続き深めるとともに、意見交換の対象を甲府市以外の他の自治体にも広げて、山梨県全体としての地域活性化、地域創生といった観点からアプローチしていく。その後、意見交換の状況や山梨県の取組み等を踏まえつつ、県内の他の市町村や関連企業、シンクタンク等との意見交換や当会議のメンバーによる議論を深め、報告書（提言）として取り纏めていくことを展望。また、提言に向けた重要な KSF（Key Success Factors）の一つと考えられる最新の ICT についても勉強を進め、議論の活性化に努めるとともに、より具体的な提言の策定を目指す。

なお、今後の検討に際しては、内容に応じてメンバーを適宜アサインするなど、柔軟な検討体制を構築していく方針。